

日南市埋蔵文化財調査報告書 第22集

平成18年度

日南市内遺跡発掘調査概報

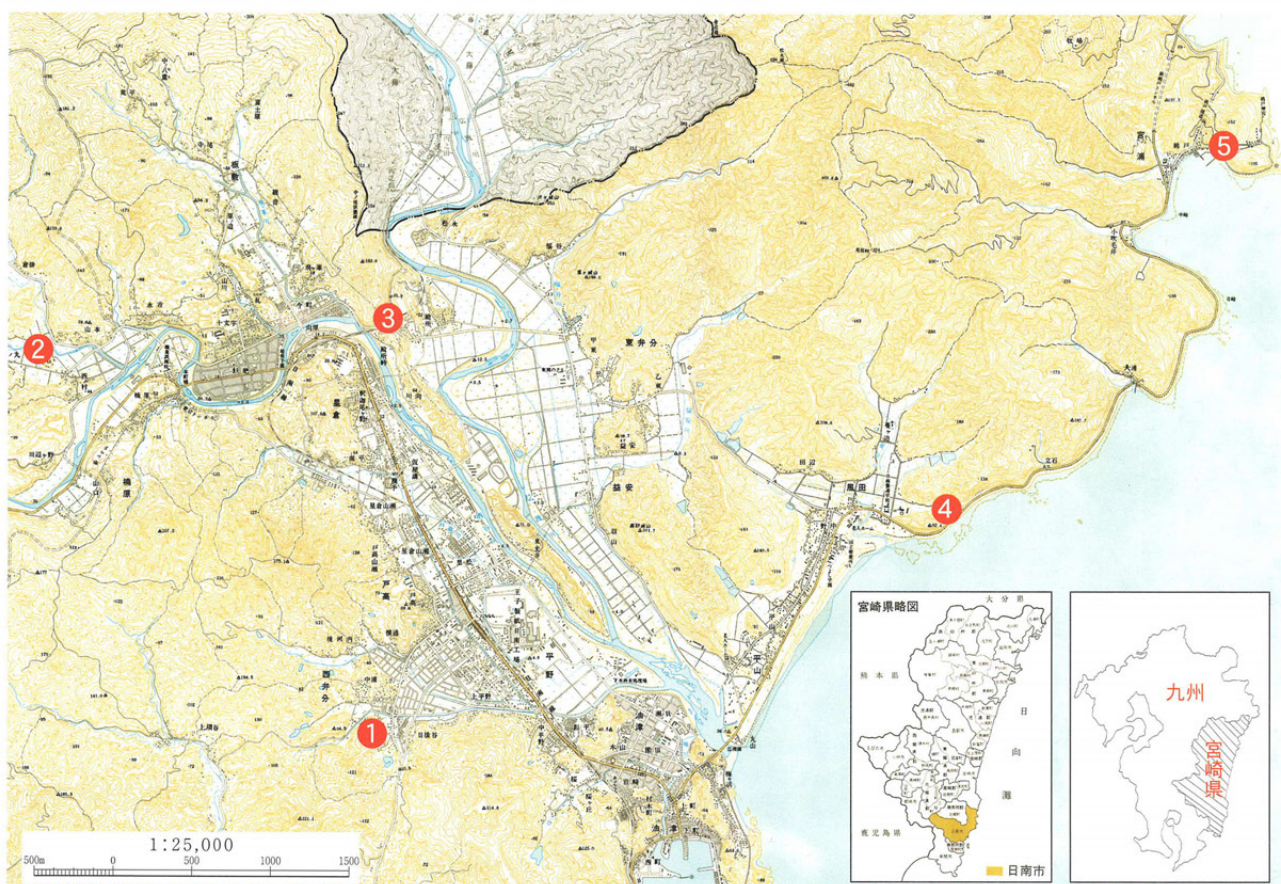
2007. 3

宮崎県日南市教育委員会

平成 18 年度

日南市内遺跡発掘調査概報

1. 西弁分地区電波基地局建設予定地
2. 吉野方地区ほ場整備予定地
3. 殿所地区電波基地局建設予定地
4. 東郷古墳確認調査
5. 鶴戸山別当墓地周辺確認調査



2007.3

宮崎県日南市教育委員会

序

この報告書は、日南市教育委員会において平成18年度に実施した埋蔵文化財の有無を確認するための発掘調査の概要を記載しております。

本市教育委員会において、埋蔵文化財保護の立場から、各種開発行為に先立ち試掘調査を実施することができたことは、非常に有意義なことだと思われます。また、今後市内で行われるであろう多くの各種開発行為に伴う未確認の埋蔵文化財についても、開発側等との十分な情報交換や協議などをすすめ、その保護に資するよう努力を重ねていきたいと思ひます。

最後になりましたが、調査を実施するにあたり、埋蔵文化財の保護に格別のご配慮とご理解を賜りました各開発関係者各位並びに地元の方々に厚くお礼を申し上げます。また、調査にあたりまして、ご指導・ご助言をくださいました宮崎県教育庁文化財課や現地調査及び整理作業にご協力いただいた作業員の方々にも重ねてお礼を申し上げます。

平成19年3月

日南市教育長 安野喜宏

例 言

1. 本書は、平成18年度に日南市教育委員会が各種開発行為に先立ち埋蔵文化財の有無を確認する為に実施した発掘調査の概要である。

2. 掲載した調査地は、
1. 西弁分地区電波基地局建設予定地
 2. 吉野方地区ほ場整備予定地
 3. 殿所地区電波基地局建設予定地
 4. 東郷古墳確認調査
 5. 鵜戸山別当墓地周辺確認調査

3. 調査主体・・・日南市教育委員会

教 育 長 安野 喜宏

生涯学習課長 藤原 英一

補佐兼文化係長 岡本 武憲

庶務担当・・・主 事 坂元 光一

調査担当・・・主 事 鬼東 絃樹

調査作業員・・・門川和徳、田中孝、中田明夫、中尾ミエ子、日高ミヨ子、
末留サダエ、山下チエ子、大磯きよ子、吉田里美、北山九州男、
川添強、梅田睦夫、田村忠治、龍池英市、田中隆幸、内田幸宏、
伊知地久美、伊知地光一

整理作業員・・・山路未来

4. 現地調査は、鬼東が行った。

5. 実測及びトレースは、鬼東、岡本が行った。

6. 本書の編集執筆は、鬼東が行った。

7. 各トレンチについての方位は磁北、レベルは、海拔高にて示した。

本文目次

1. 西弁分電波基地局建設予定地	
位置と環境	1
調査の経緯	1
調査の結果	1
2. 吉野方地区ほ場整備予定地	
位置と環境	5
調査の経緯	5
調査の結果	5
3. 殿所地区電波基地局建設予定地	
位置と環境	9
調査の経緯	9
調査の結果	9
4. 東郷古墳確認調査	
位置と環境	11
調査の経緯	11
調査の結果	11
5. 鵜戸山別当墓地周辺調査	
位置と環境	14
調査の経緯	14
調査の結果	14

挿図目次

第1図 電波基地局建設予定地 位置図	1
第2図 電波基地局建設予定地 トレンチ位置図	2
第3図 電波基地局建設予定地 トレンチ土層断面図	2
第4図 吉野方地区ほ場整備予定地 位置図	5
第5図 吉野方地区ほ場整備予定地 トレンチ位置図	6
第6図 電波基地局建設予定地 位置図	9
第7図 電波基地局建設予定地 トレンチ位置図	10
第8図 東郷古墳 トレンチ位置図	11
第9図 東郷古墳 石室位置図	12
第10図 鵜戸山別当墓地周辺調査 位置図	14
第11図 鵜戸山別当墓地周辺調査 位置図(拡大)	15

図版目次

図版1 電波基地局建設予定地 トレンチ調査状況その1	3
図版2 電波基地局建設予定地 トレンチ調査状況その2	4
図版3 吉野方地区ほ場整備予定地 トレンチ調査状況その1	6
図版4 吉野方地区ほ場整備予定地 トレンチ調査状況その2	7
図版5 吉野方地区ほ場整備予定地 トレンチ調査状況その3	8
図版6 電波基地局建設予定地 トレンチ調査状況	10
図版7 東郷古墳全景	12
図版8 東郷古墳調査状況	13
図版9 鵜戸山別当墓地周辺調査地 全景	15
図版10 鵜戸山別当墓地周辺調査墓石出土状況	16

西弁分地区電波基地局建設予定地

〔位置と環境〕

西弁分地区電波基地局建設予定地は、日南市大字西弁分字坊屋敷3583番に位置する。この地点は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、上部が平坦な丘陵（比高差約50m）上に位置するため、遺構、遺物が出土することも予想された。かつてはみかん畑であったが、現在は、杉林となっている。

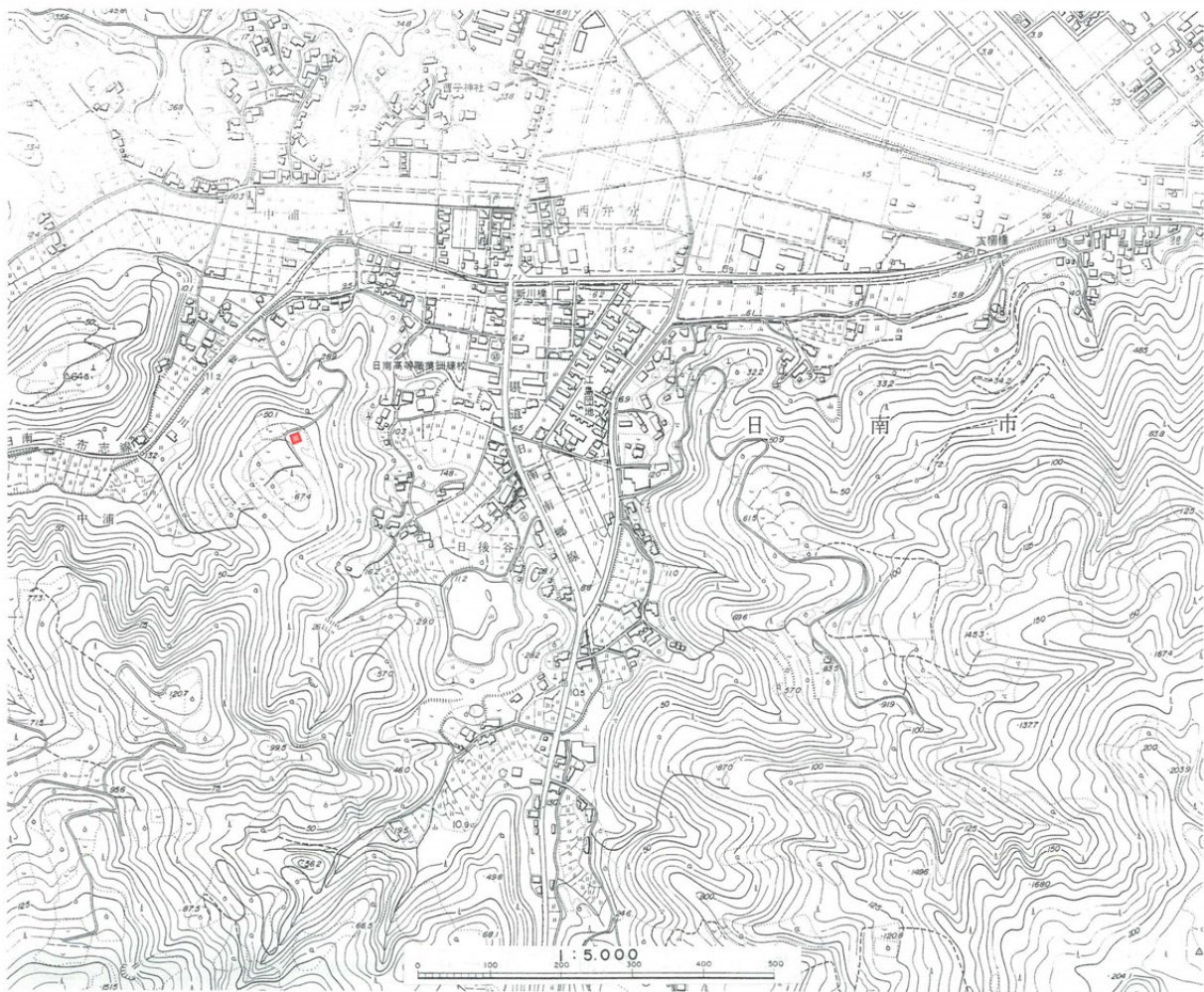
〔調査の経緯〕

株式会社加賀城建設からNTTドコモの電波基地局建設についての確認申請が会ったため、工事に先立ち試掘調査を実施することとなった。調査対象は杉林の中に位置するため、工事箇所を中心に、杉と杉の間に1.8m×1.5mのトレンチを3箇所設定し、遺物の検出に努めた。

〔調査の結果〕

調査の結果、遺構、遺物ともに確認できなかった。

電波基地局建設予定地 位置図



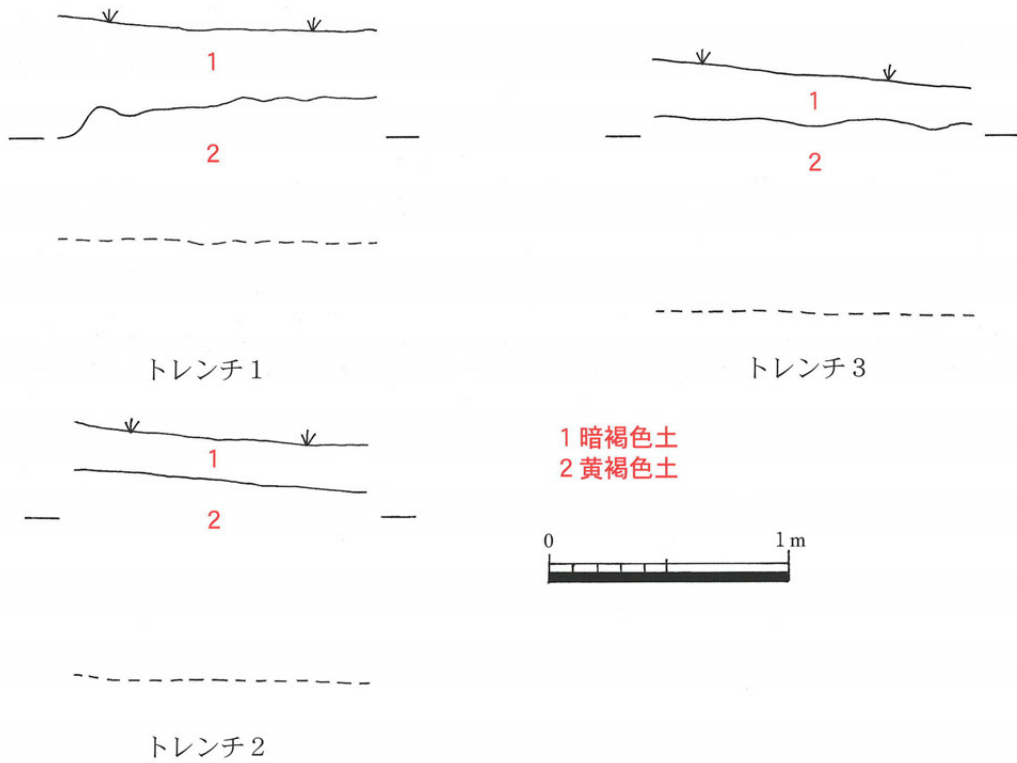
第1図

電波基地局建設予定地 トレンチ位置図



第2図

電波基地局建設予定地 トレンチ土層断面図

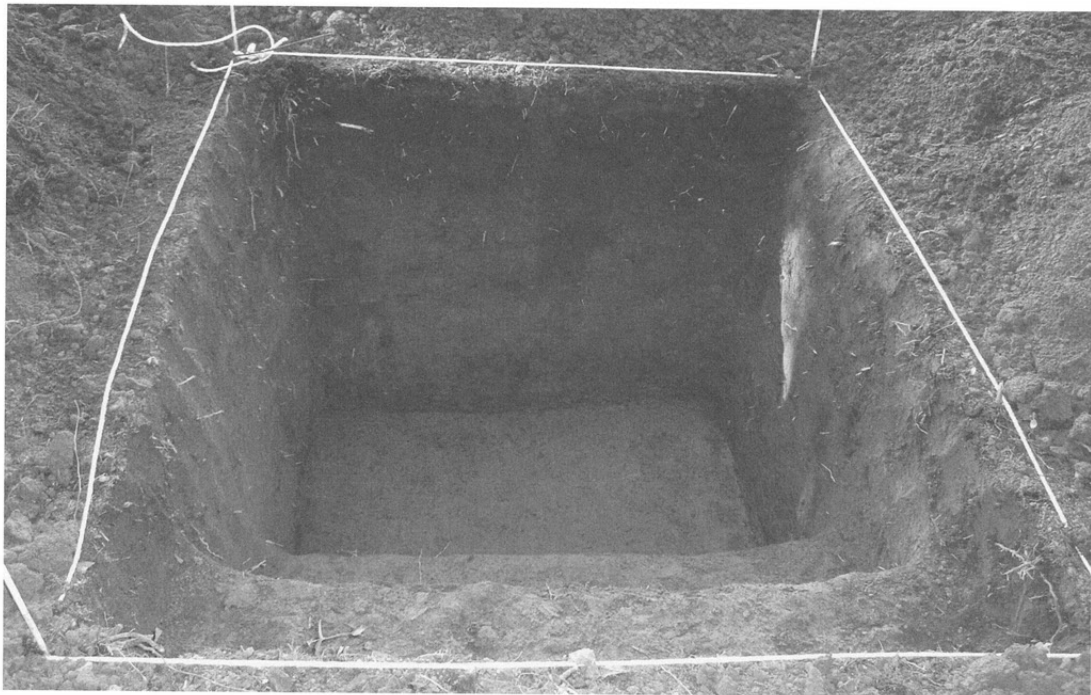


第3図

電波基地局建設予定地 トレンチ調査状況その1



トレンチ1



トレンチ2

図版 1

電波基地局建設予定地 トレンチ調査状況その2



トレンチ3



作業状況

吉野方地区ほ場整備予定地

〔位置と環境〕

当該地は日南市大字吉野方字井口田の大根川の左岸に位置する比高差約18mの独立丘陵である。丘陵下部は日南層群の泥岩で、上部はシラスからなる。頂上の建造物の跡らしき窪地や石造物、墓石等が存在するため、かつては信仰等の場所だったと思われるが、現在は杉山となっている。

〔調査の経緯〕

本年度施工予定の県営ほ場整備事業吉野方地区において、大根川左岸の独立丘陵について削平する計画であったが、樹木伐採の結果、石造物、墓石等が存在することが判明したため、宮崎県南那珂農林振興局から、埋蔵文化財の所在の有無についての照会があった。試掘調査は、9月14日～10月5日の期間で実施した。

〔調査の結果〕

丘陵最高所の南に開いた窪地と青面金剛石碑、丘陵北側の裾部には墓があることから、その2ヶ所を中心にトレンチを設定した。丘陵最高所（比高差約18m）には、祠（ほこら）があったとみられ、江戸時代の陶磁器、釘、古銭（寛永通宝）等が出土した。青面金剛の石碑は、祠跡の西の丘陵端に位置している。貞享4年(1687)2月の建立で、造立者7名の名前が下部に記されている。

丘陵北側裾部の墓石周辺は、焼け石が多数出土したが、墓壙（墓穴）は確認されなかった。墓石は、「涼岳宗禅定門」「秋林香禅定尼」の夫婦と見られる戒名が刻まれており、延宝2年(1674)4月に、27回忌として建立されたと記されている。

調査の結果、当該丘陵は江戸時代を通じて、吉野方地区の瀬戸尾野周辺の住民がお参りする祠として機能していたと考えられる。また、「涼岳宗禅定門」「秋林香禅定尼」の墓石についても、この地域を所領とする伊東家家臣夫婦の墓ではないかと推定される。

ほ場整備予定地 位置図



第4図

ほ場整備予定地 トレンチ位置図



第5図

ほ場整備予定地 トレンチ調査状況その1



トレンチ1



トレンチ2

図版 3

ほ場整備予定地 トレンチ調査状況その2



祠跡



墓石

ほ場整備予定地 トレンチ調査状況その3



青面金剛碑



作業状況

殿所地区電波基地局建設予定地

〔位置と環境〕

殿所地区電波基地局建設予定地は、日南市大字殿所1843番に位置する。この地点は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、中ノ尾砦跡の南麓に位置するため、遺構、遺物が出土する可能性が高いと予想された。かつてはみかん畑として利用されていたようだが、現在は、竹藪となっている。

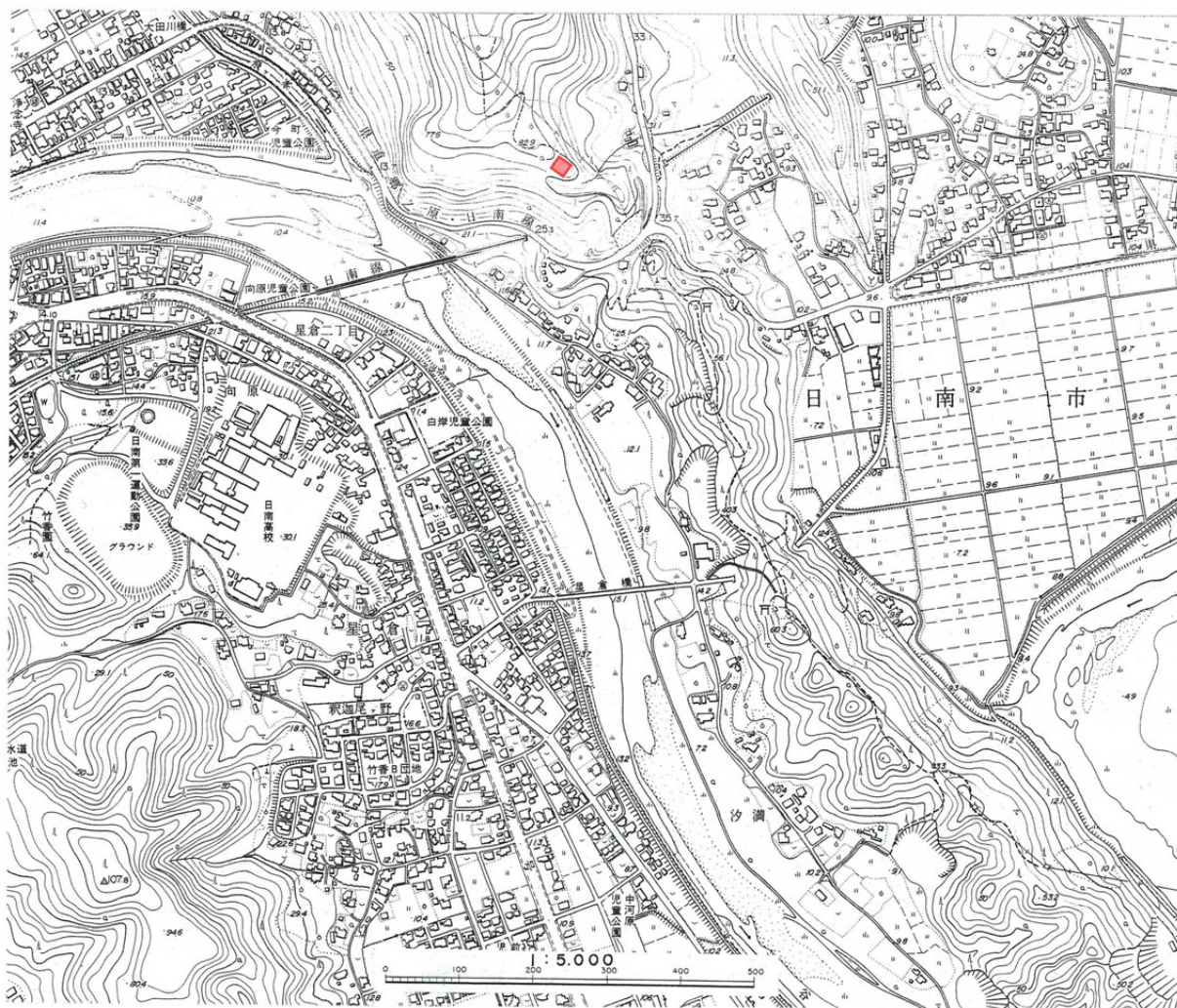
〔調査の経緯〕

株式会社加賀城建設からNTTドコモの電波基地局建設についての確認申請があったため、工事に先立ち試掘調査を実施することとなった。調査は10月25日～10月26日の期間で、建設予定箇所の中心に3m×1.5mのトレンチを1箇所設定し、遺物の検出に努めた。

〔調査の結果〕

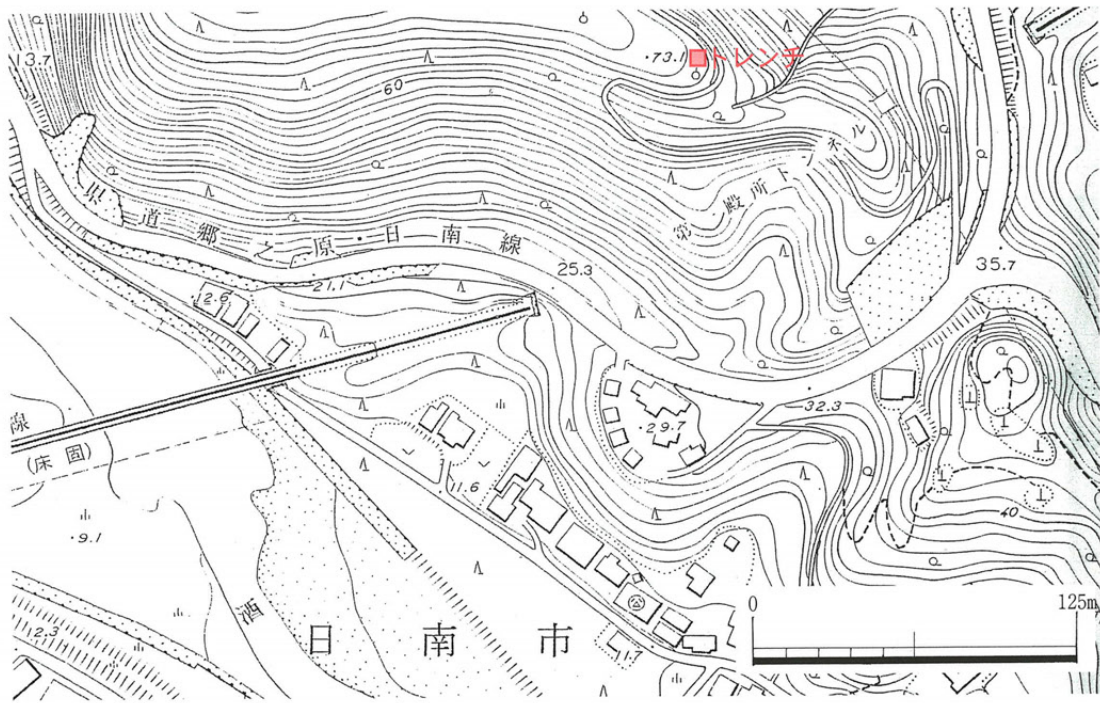
調査の結果、遺構、遺物ともに確認できなかった。

電波基地局建設予定地 位置図



第6図

電波基地局建設予定地 トレンチ位置図



第7図

電波基地局建設予定地 トレンチ調査状況



図版 6

東郷古墳確認調査

〔位置と環境〕

東郷古墳は日南市大字風田字前磯平4144-1及び4153に位置する県指定の史跡である。国有林と民有地の境にあり日向灘に面した標高61mの独立した丘陵上に位置している。古墳は丘陵最高所から北東へ一段下った平地に位置し、墳丘東側が大きく堀試されていて墳丘の形状は不明である。

〔調査の経緯〕

本古墳は、昭和2年の『宮崎縣史蹟調査 第六輯 南那珂郡之部』によると2つの石室をもつ古墳で、竪穴式石室のように見えるが、詳細は不明、としている。このため、日南市教育委員会において18年度事業として行う文化財説明板の設置に伴い、石室構造を確認することとなった。2月5日～2月28日の期間に、石室を覆う樹木を取り除き、石室内部の土砂を取り除いた。

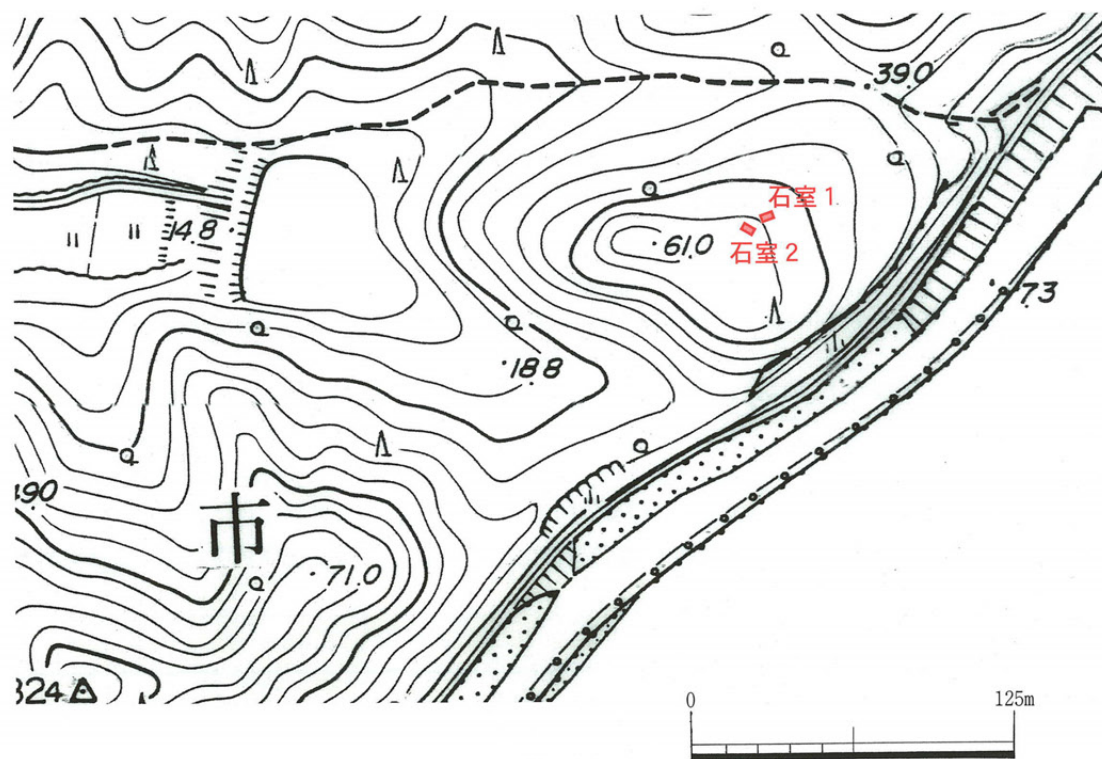
〔調査の結果〕

北部に位置する石室1は主軸を、北東に振った竪穴式石室と考えられる。石室の長さは、4.3m、幅1.3mで、石材は、角の丸くなった50cm×30cm程の石材が積み上げられているが、東壁面の面積は内側に崩落している。天井石は長さ1.5m程の長方形の石を使用しているが、現位置をとどめているものはない。石室内部の土砂は取り除かなかったため、遺物等は検出されなかった。南よりの石室2は主軸を石室1より東へ振った横穴式石室もしくは、横口式石郭のように見える。石室の長さは、確認できる範囲で約5.5m、幅約1.0mを計る。石材は、石室1と同様であるが、南半部は、丸石を積み上げており、北半部は、板状の石材を立てて使用している。石室内の土砂からは中世とみられる土器片及び、須恵器甕胴部が出土した。以上のように、副葬品や石室構造の詳細は不明であるため、築造時期を明確にはできないが、5世紀代後半から6世紀前半にかけての古墳と推定される。



第8図

東郷古墳 石室位置図



第9図

東郷古墳 全景



図版 7

東郷古墳調査状況



石室 1 (調査前)



石室 2 (調査前)



石室 1 (調査後)



石室 2 (調査後)

鵜戸山別当墓地周辺確認調査

〔位置と環境〕

市指定史跡である鵜戸山別当墓地は、鵜戸神宮の高所に位置している。当該地は多数の墓石が集積していると思われたが、樹木に覆われており、その全容を窺うことができなかった。17年度事業として樹木の伐採を行ったことにより、地表に表れている墓石が明らかになり、江戸時代全期を通して多数の墓石が集積されていることが判明した。鵜戸山は古代から信仰の地として栄えていたため、中世、及びそれ以前の遺物も出土する可能性は高いと推測された。

〔調査の経緯〕

当該地は17年度事業で、墓地の全体像が明らかになったことにより、その結果をふまえて、18年度事業として、さらに地下遺構を調査することとした。調査にあたっては地表の土砂を丁寧に取り除き、墓石の検出に努めた。

〔調査の結果〕

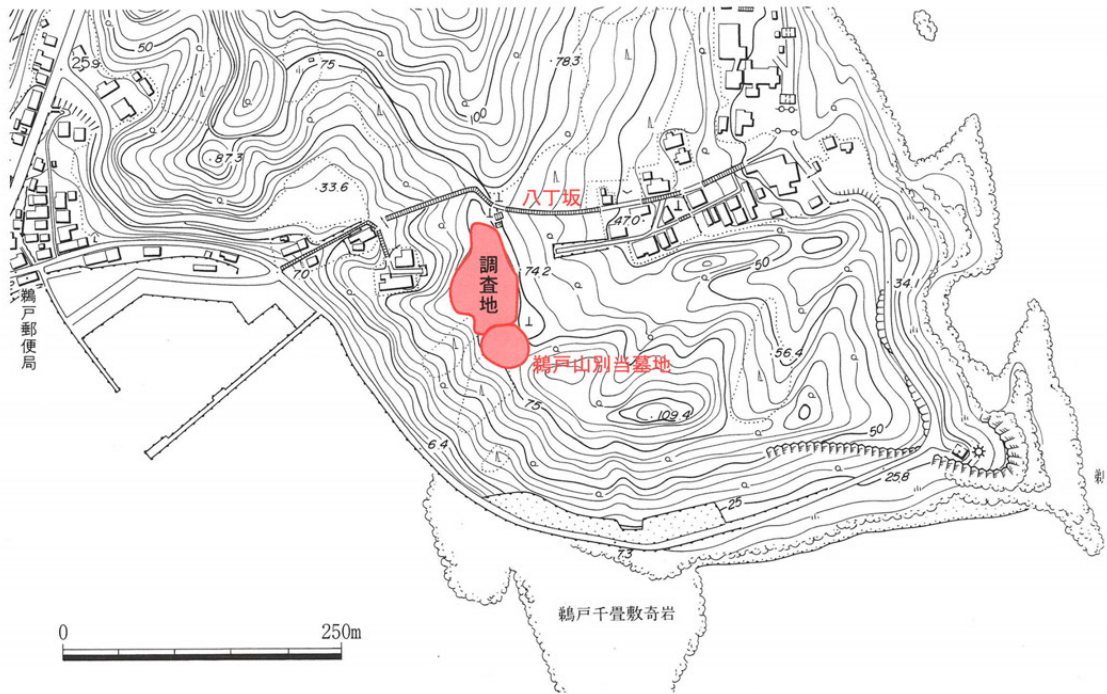
今回の調査の結果、樹木や土砂に埋もれた墓石が多数発見された。今回の調査で判明したものは、江戸及び明治時代のものがほとんどで、中世以前のもの確認されなかった。

鵜戸山別当墓地周辺確認調査 位置図



第10図

鵜戸山別当墓地周辺確認調査 位置図 (拡大)



第11図

調査地全景



図版 9

鵜戸山別当墓地周辺確認調査 墓石出土状況



墓石出土状況 1



墓石出土状況 2

日南市埋蔵文化財調査報告書 第22集

平成18年度 日南市遺跡発掘調査概報

2007年3月

編集発行 宮崎県日南市教育委員会
〒887-8585 日南市中央通1丁目1番地1
電 話 0987-31-1145

印 刷 株式会社 田中写真印刷
〒887-0031 日南市戸高2丁目3番地5
TEL 0987-22-5328 FAX 0987-22-5326